

TS（トータル・サティスファクション）を目指して⑱

“岡田武史さんに学ぶ「感謝」の力”

校長室担当より

新しい年度を迎えました。この学校でも新しい風が吹いています。今年度も引き続き、よろしくお願いいたします。

3月24日（木）に、サッカー日本代表チームがオーストラリア代表チームを相手に勝利をおさめ、来年カタールで開催されるワールドカップへの出場を決めたのは記憶に新しいところです。その試合で、解説をされていた元日本代表監督、岡田武史さんが次のような言葉を使われていました。

「成長するときは、やはり困難や失敗の後なんです。批判は成長させてくれるんですよ。でも面白いことに、批判する人は成長しない。（中略）自分の成長を投げうってまで、その人は自分を成長させてくれる、ありがたいことなんだ。」

まず批判をする人についてです。心理学の分野で、自分に強いコンプレックスを抱えている人は、他者の良くない面に過剰に反応してしまい、相手を批判する行動をするとされています。つまり、自分の悪い面を認めたくない時に、他者にその悪い面を押し付けてしまうという心の作用が働くというのです。こうなると、どんな人の前でも不安を覚え、相手からどう見られているかが気になり、自分の失敗を隠したり、取り繕おうとしたりするために、他者への批判へと身を委ねることとなります。他者を批判しないで生きていくことは易しいことではないかもしれませんが、少なくとも他者を批判していることに自分が気づいたなら、このことは自分自身に自信が持てないコンプレックスの表れではないかと冷静に受け止めることが必要だと考えています。言い換えると、思いどおりにならないことに、「正対する」ことが大切です。「正対する」とは、「自分の伸びしろを教えてもらうチャンスだ。ありがたい。」とまずは考えることです。実は、このことは批判を受ける人の対処法にも通じます。様々な書籍にも記載してありますが、「批判」を受けた場合の対処法も、実は「感謝」です。「批判」を「責められている。」と考えるのではなく、「何かを気づかせようとしてくれている。」と捉えて、「ありがたい」と考えることなのです。人生で起こるすべての事象に「正対する」、つまり

「感謝」ができるということは、人生を豊かに生きている証であると言えます。

私が尊敬してやまない、株式会社アントレプレナーセンター代表取締役 福島正伸さんも、次のように語っておられます。

「『批判』は『感謝』に勝てない。『批判』や『中傷』をする人がいくらいても、その人たちに常に『感謝』の気持ちで接触しておくのです。『ありがとうございます』と一言伝えるのです。するとその人たちはいつか必ず仲間になります。つまり、『感謝』がすごいのは、最後は周りの人をすべて仲間にしてしまうということです。」

まさにそのとおりだと思います。昨年度、児童生徒には一年間で2万5千回の「ありがとう」励行の話をしました。彼らが笑顔で「ありがとう」と言ってくれる姿に、私は毎日「感謝」しています。本当に「感謝」の力は偉大です。私たち自身もモデルとなって、これを実践し、いい学校を創りましょう、一緒に。(令和4年4月13日)

本校教職員として目指す方向性（確認）

- 1 トータル・サティスファクションの実現
- 2 学びに向かう力をもつモデルを率先垂範
- 3 対話とパートナーシップに基づく行動
- 4 全教職員で全校の児童生徒を見守るチームの実現
- 5 「今さえ、ここさえ、自分さえよければいい」の考えを戒める